



三和油化工業株式会社

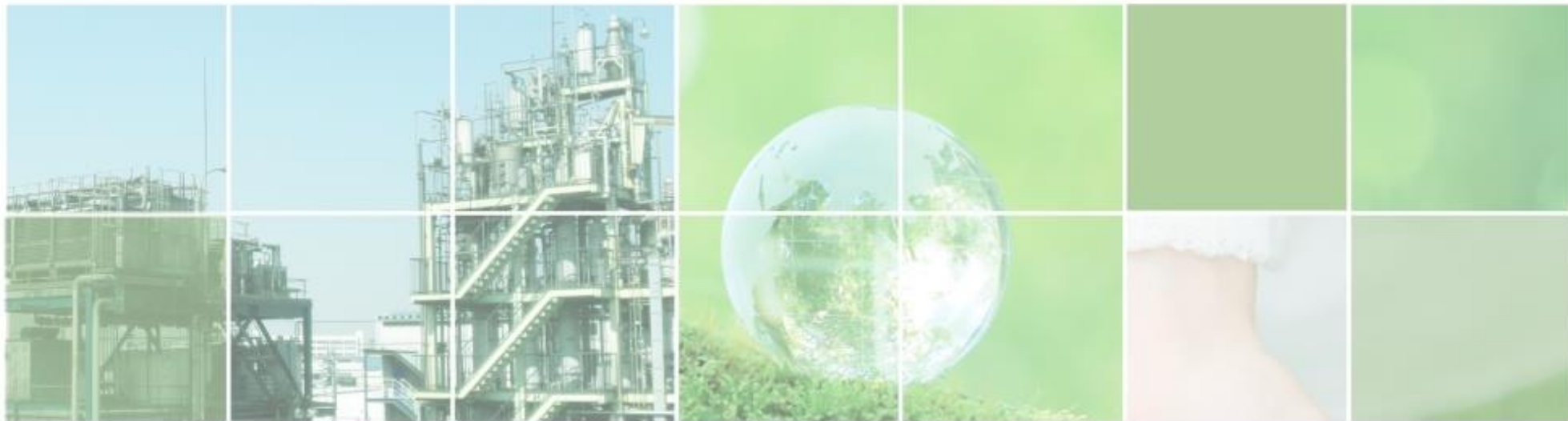
東証スタンダード市場／名証メイン市場

証券コード：4125

2024年3月期 第2四半期 決算説明資料

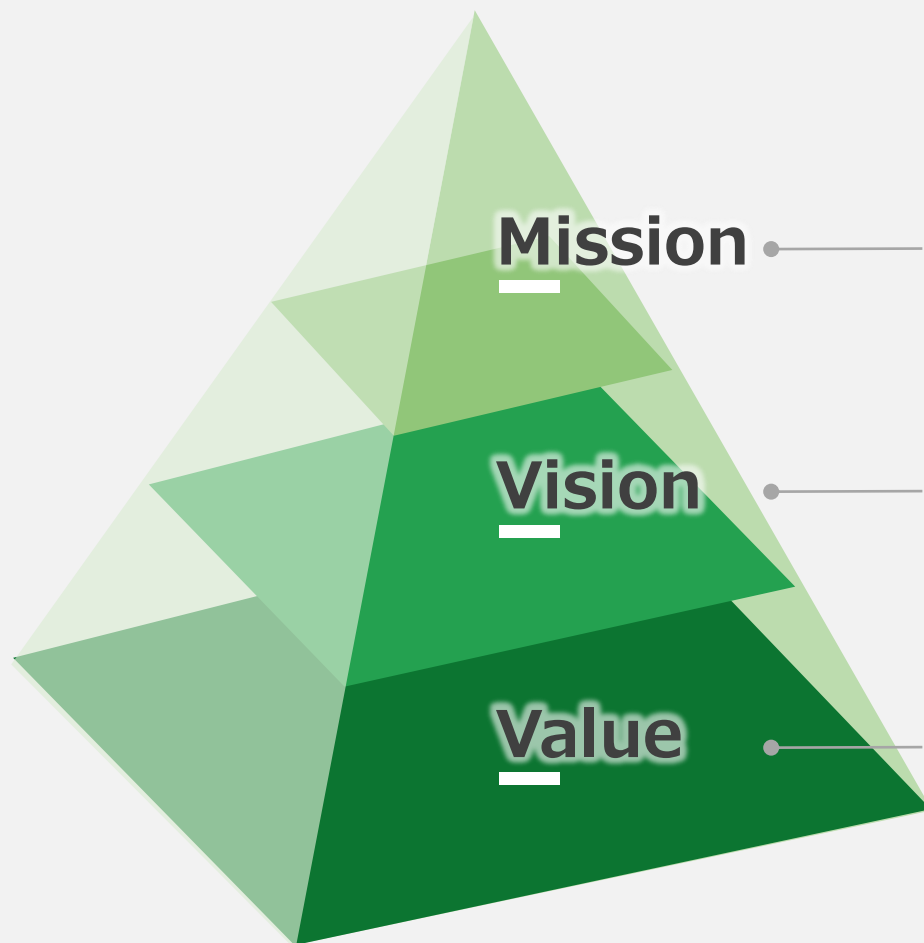
2023年11月17日

1. 会社概要	P. 3
2. 2024年3月期 第2四半期 決算概要	P.10
3. 2024年3月期 業績予想	P.21
4. 中期経営計画	P.26
5. トピックス	P.29
6. Appendix	P.33



会社概要





我々は何のために
存在しているのか

「環境ニーズを創造する」をテーマに
事業活動を展開し、持続可能な
社会の実現への貢献

我々はどこに行こう
としているのか

社会から必要とされる
環境リーディングカンパニー
を目指す

我々は何を大切に
しているのか

社会からより信頼されるよう、
「責任」・「挑戦」・「創造」を根幹に、
与えられた役割を常に考え、
「誠実に、確実に」やり遂げる

■ リユース・リサイクル・化学品の3つが当社の主力事業

PCB事業

4.1% (23年3月期2Q : 4.2%)

PCB特別措置法に基づきPCB含有廃棄物の適正処理を行うためのソリューションを提供

自動車事業

16.1% (23年3月期2Q : 13.5%)

自動車メーカー・自動車部品メーカーなどに潤滑油や金属加工油などの油剤製品、工業用洗浄剤及び自動車製造工程で使用される各種副資材を製造・販売

化学品事業

26.5% (23年3月期2Q : 36.1%)

有機化学品や無機化学品及びそれらを精製・加工した化学品の製造・販売及び受託加工

リユース事業

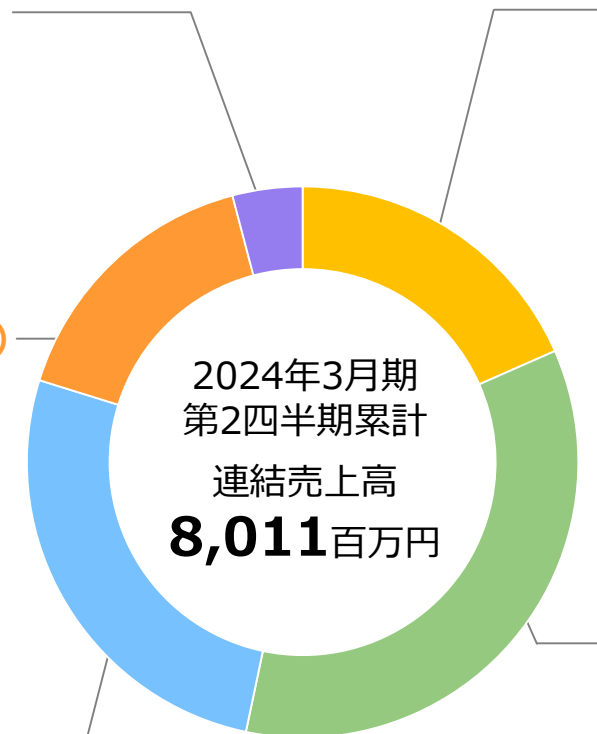
18.4% (23年3月期2Q : 17.7%)

使用済み廃溶剤、廃酸、有用金属等を含む産業廃棄物などを中間処分・再資源化し、元の用途や素材として再使用

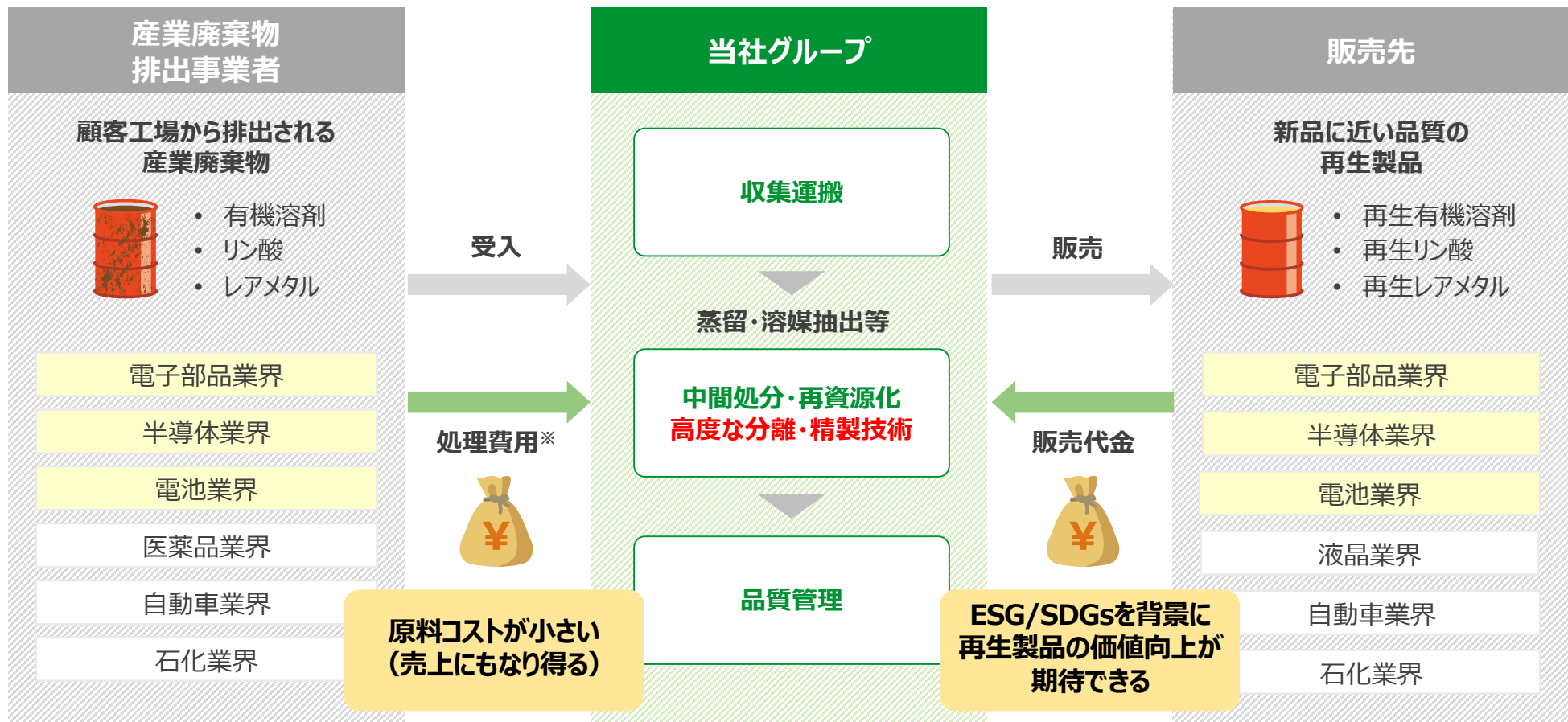
リサイクル事業

34.9% (23年3月期2Q : 28.5%)

使用済み廃溶剤、汚泥、廃プラスチック類などの産業廃棄物を中間処分・再資源化し、再生燃料やセメント・石灰・鉄鋼の副原料及び副資材としての2次利用を中心に再資源化



- 回収した廃棄物を**新品に近い品質の再生製品に再資源化**して資源の国内循環を促進
- 2022年後半から半導体・電子部品業界が低迷 ⇒ 一時的に廃棄物原料の数量は減少傾向



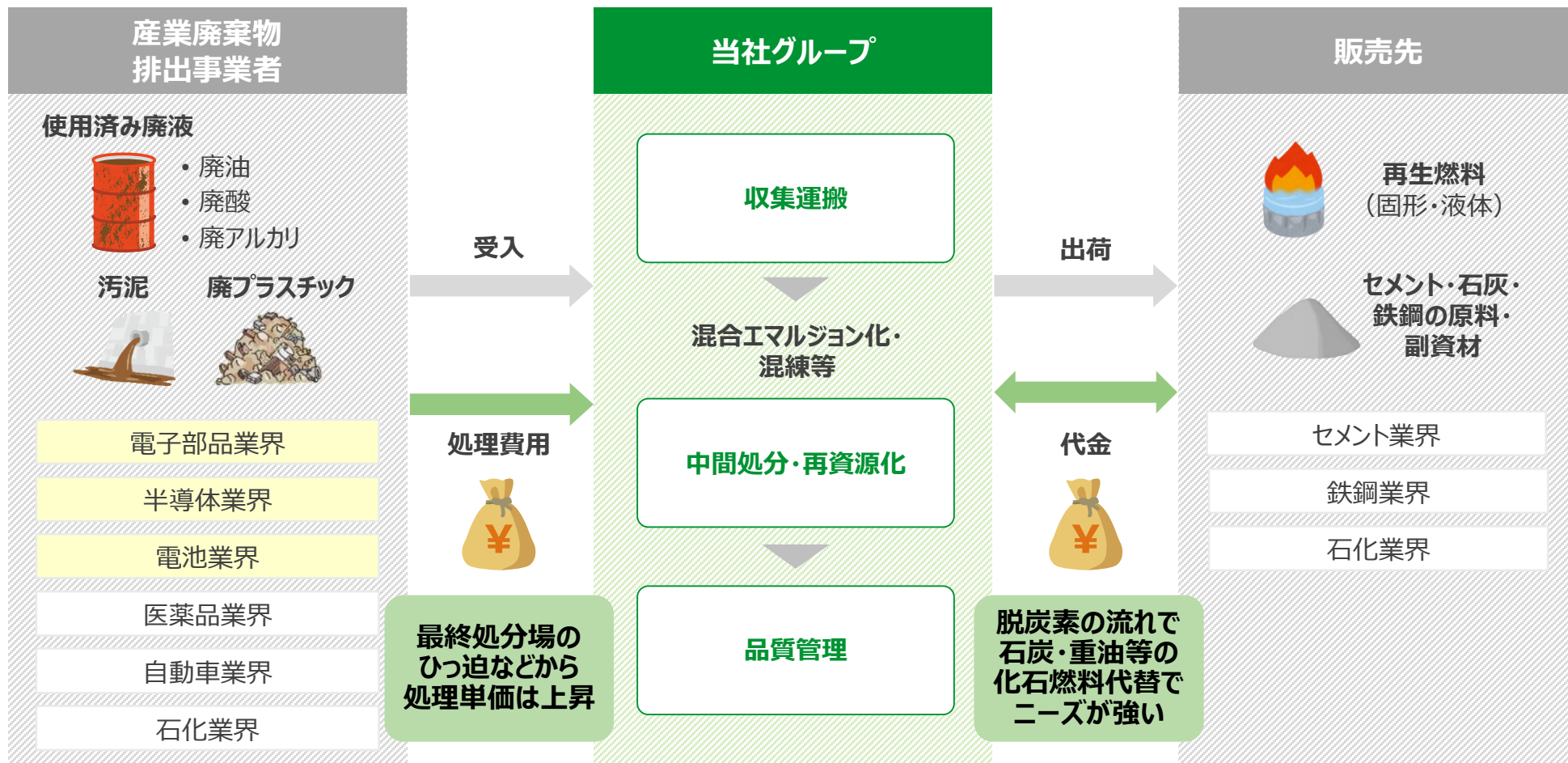
※有価物として当社グループが買取する場合もあり

排出先と販売先が
同じ場合もあり

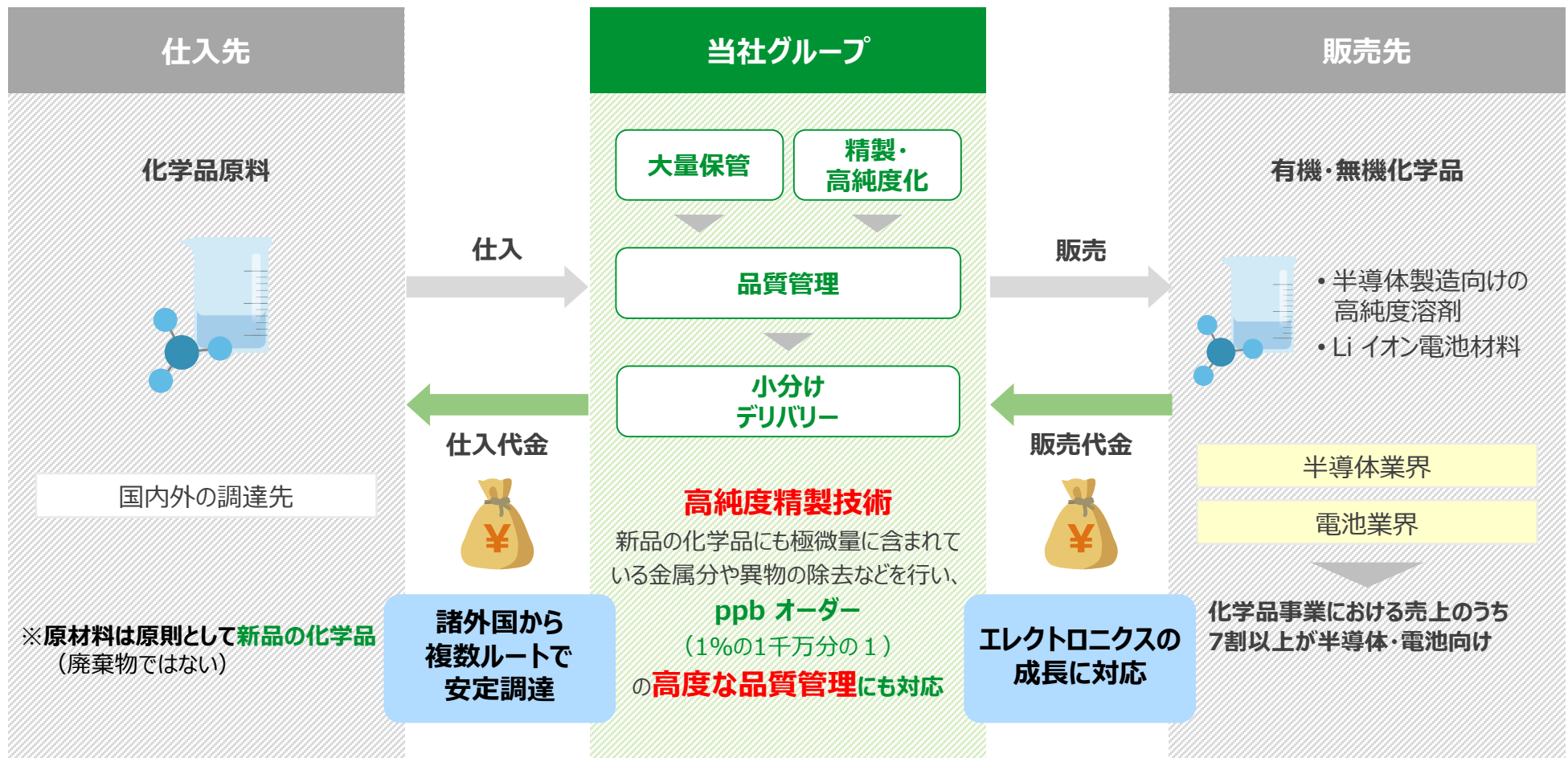
色付きは今後大きく伸びる業界



- 素材として再資源化できない産業廃棄物を**再生燃料など別用途へリサイクル**して有効利用
- **幅広い業界から安定的に廃棄物原料を収集**、東西工場拠点の稼働も徐々に増加
- セメント業界や鉄鋼業界では脱炭素の観点から**再生燃料の需要が強い**



- **電子部品・半導体・電池関連メーカー**が使用する**高品質な有機・無機化学品**を供給
- 2022年後半から継続する半導体・電子部品業界の低迷 ⇒ 一時的に製品需要は減少傾向
- **設備投資**を進め、2024年以降の**需要増加対応**に備えた体制づくり





当社グループを取り巻く環境

- 日本は資源・エネルギーの輸入依存度が高く、サステナブルニーズが特に強い
- エレクトロニクス分野は国策として伸ばしていく重要マーケット

資源制約・リスク

- 枯渇・争奪
 - 供給途絶
- ⇒ **資源の調達難**

環境制約・リスク

- 廃棄物処理
 - CO₂削減
- ⇒ **非対応は敬遠される**

半導体

- あらゆる電子機器に使用
- スマート・デジタル社会を支える基幹部品
- 高性能化が省エネ化に直結

蓄電池

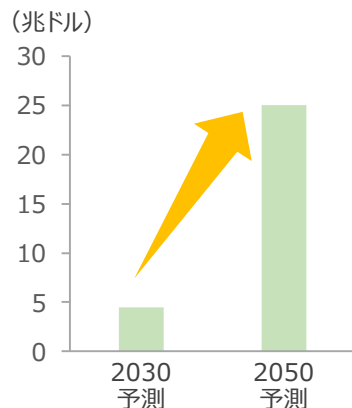
- モビリティ・電子機器の動力源
- エネルギーの貯蔵媒体

➡ **サーキュラーエコノミーを通じた新しい成長が期待される**

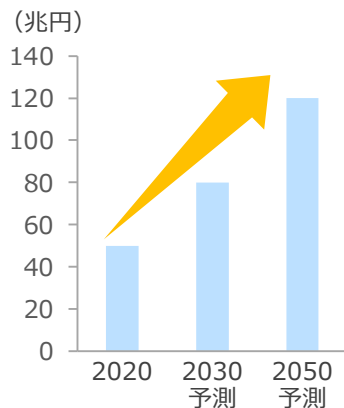
➡ **サプライチェーンの確保とさらなる成長が期待される**

サーキュラーエコノミー関連の市場規模

世界全体

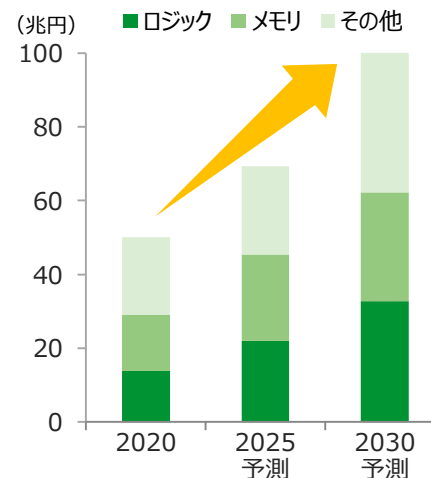


日本国内



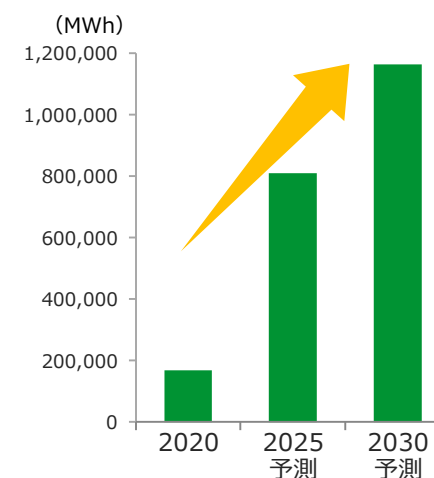
出典：経済産業省／2023年3月 成長志向型の資源自律経済戦略の概要

世界の半導体市場

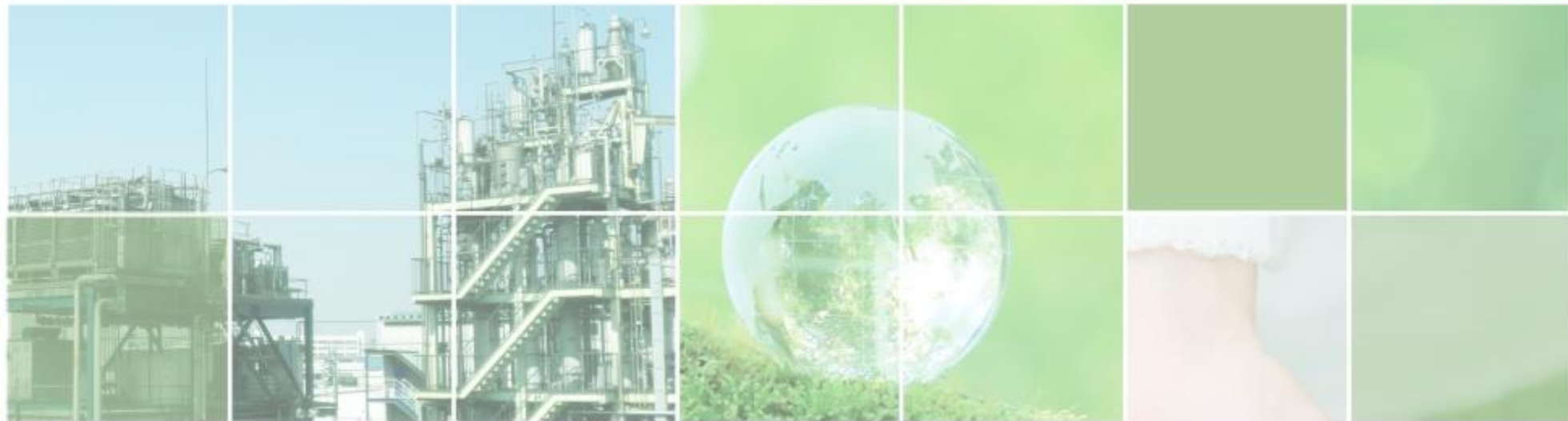


出典：経済産業省「半導体戦略（概略）」
※縦軸は出荷額を表す

リチウムイオン二次電池の世界市場



出典：矢野経済研究所発表「車載用リチウムイオン電池世界市場に関する調査」



2024年3月期 第2四半期 決算概要



2024年3月期 第2四半期累計

売上高	営業利益	営業利益率
8,011百万円 【前年同期比】△11.0%	769百万円 【前年同期比】△22.6%	9.6% 【前年同期比】△1.4PT

事業環境

- 米中対立、ウクライナ・ロシア情勢等の地政学リスクや為替影響により、資源・エネルギーコストは高水準
- 国内は景気回復が期待される一方、半導体・化学業界の一部では稼働回復遅れや在庫調整も見られる

内部対応

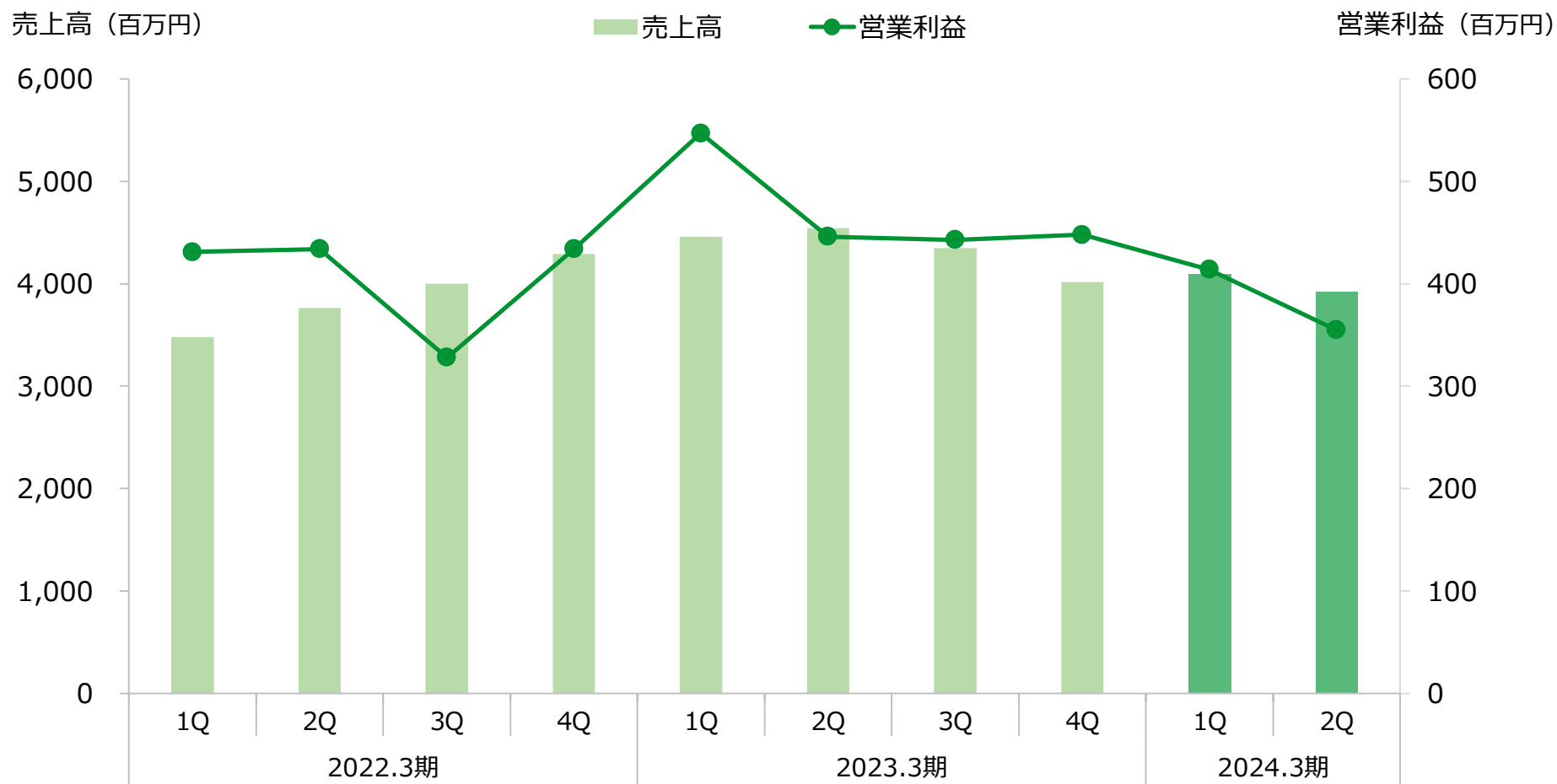
- 産業廃棄物の有効利用や電子材料向け製品の供給に注力
- 次年度以降の半導体・電池業界の回復に向けて、設備投資を進める

⇒ 顧客の稼働回復遅れや在庫調整等、外部環境の影響が大きく減収減益

- 半導体・化学業界の一部における稼働回復の遅れにより、前年同期比で減収減益し、計画未達
- 利益率の高いリサイクル事業が伸長し、セールスマックスの変化により粗利率は上昇

	2023年3月期 2Q累計		2024年3月期 2Q累計							
	実績	売上高比率	実績	売上高比率	前年同期比 増減額	前年同期比	予想	売上高比率	予想比 増減額	予想比
(単位：百万円)										
売上高	9,004	100.0%	8,011	100.0%	△992	△11.0%	8,900	100.0%	△889	△10.0%
売上総利益	2,488	27.6%	2,419	30.2%	△69	△2.8%				
営業利益	993	11.0%	769	9.6%	△224	△22.6%	990	11.1%	△221	△22.3%
経常利益	1,015	11.3%	787	9.8%	△227	△22.4%	1,000	11.2%	△213	△21.3%
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	651	7.2%	527	6.6%	△124	△19.1%	730	8.2%	△203	△27.8%

- 半導体や化学業界顧客の一部における稼働低迷が継続し、リユース・化学品事業が伸び悩む
- 外部環境及び固定費増で減益だが、幅広い顧客層のリサイクル事業でリスク分散ができています

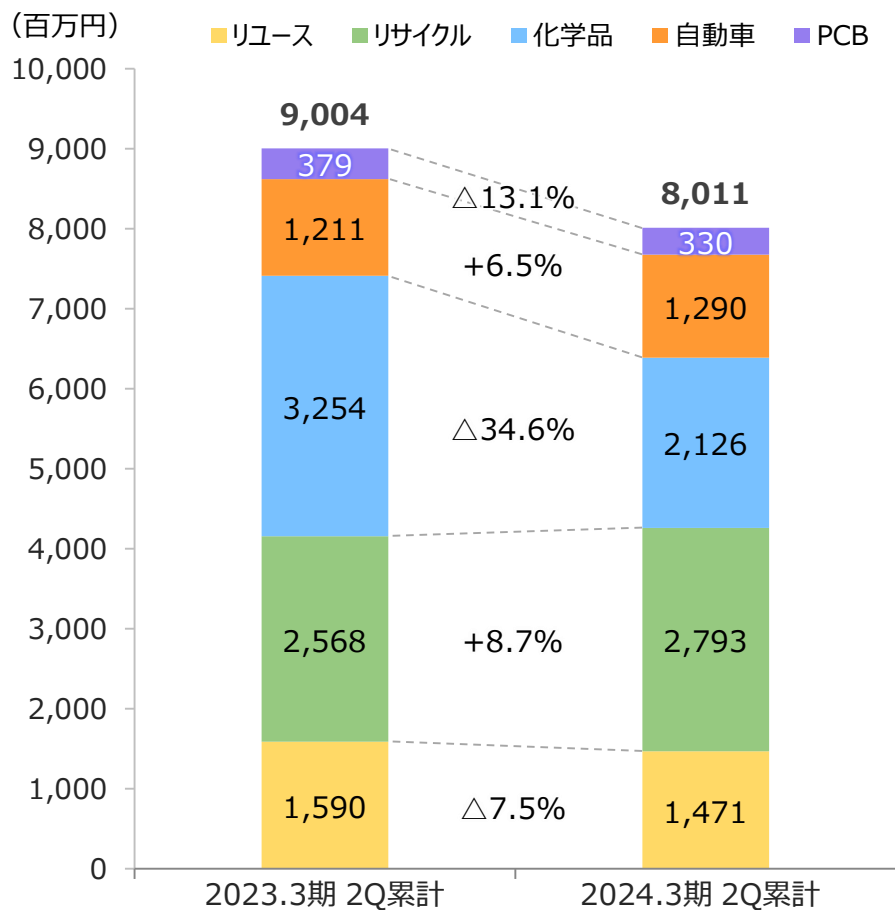


※2022.3期 3Qは上場関連費用等を計上しております

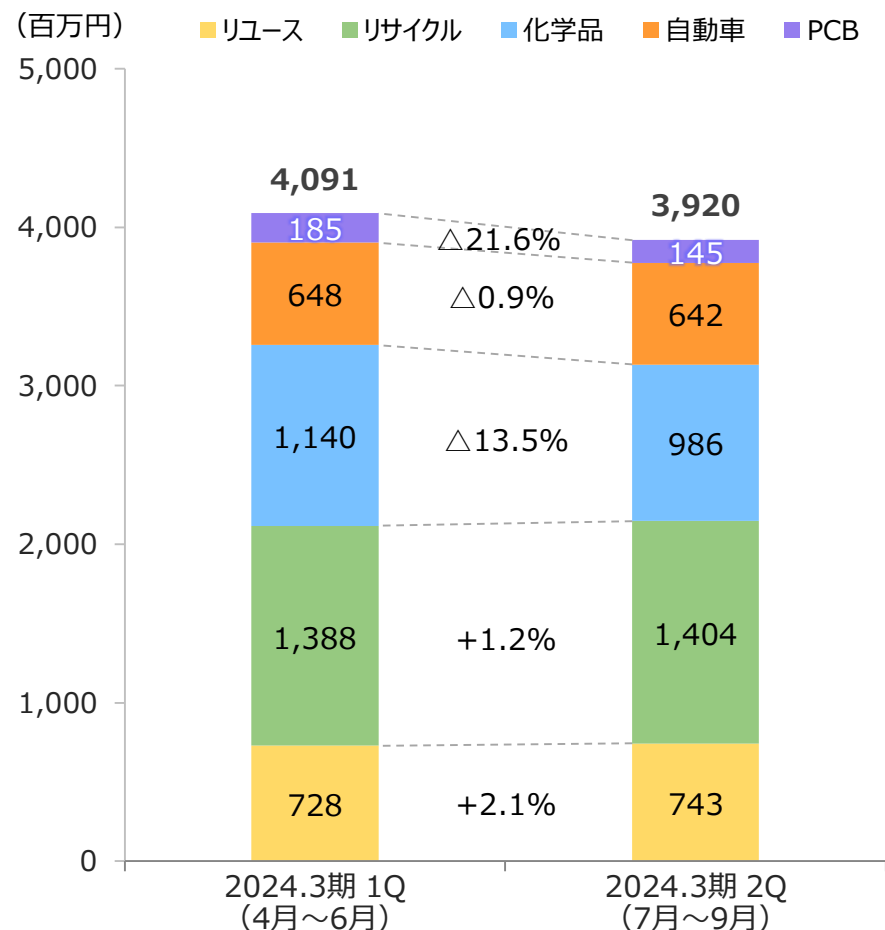
※2022.3期 1Q・2Qの数値については、監査法人によるレビュー対象外であります

- 化学品事業は半導体・電子部品向けの一時的な需要低迷と、主要品目の単価低下が継続
- 顧客ニーズの強いリユース・リサイクル事業で売上を下支え、再生製品の需要は変わらず強い

前年同期比 (YoY)

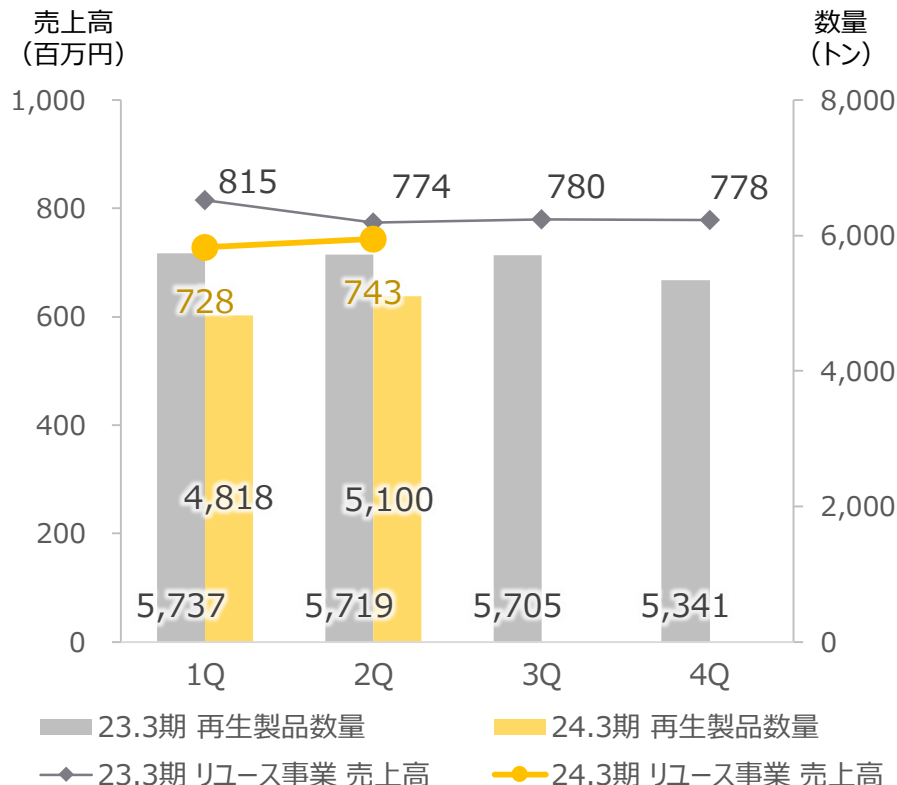


前四半期比 (QoQ)






リユース事業

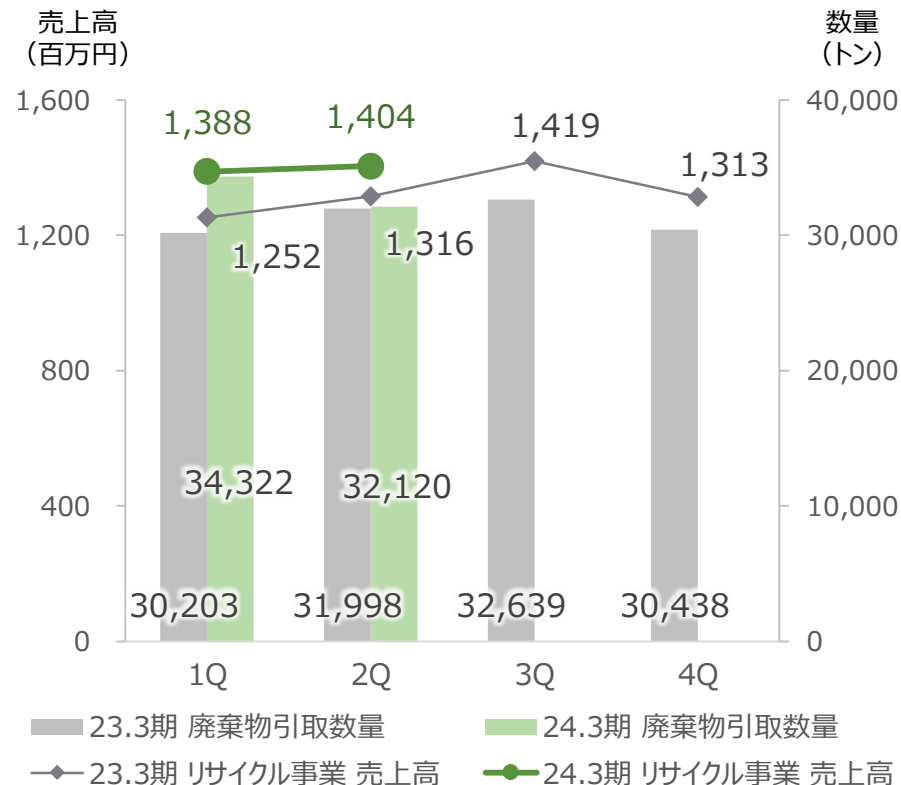


■ リユース事業売上と再生製品販売数量

- 外部環境は悪い状況継続も、営業強化で数量は微増
- 再生製品の売価は概ね横ばい



リサイクル事業



■ リサイクル事業売上と廃棄物引取数量

- 西日本は引取数量増だが、グループ全体では減少
- 1Q後半にスポット引取が多くあり、2Qに売上が期ズレ

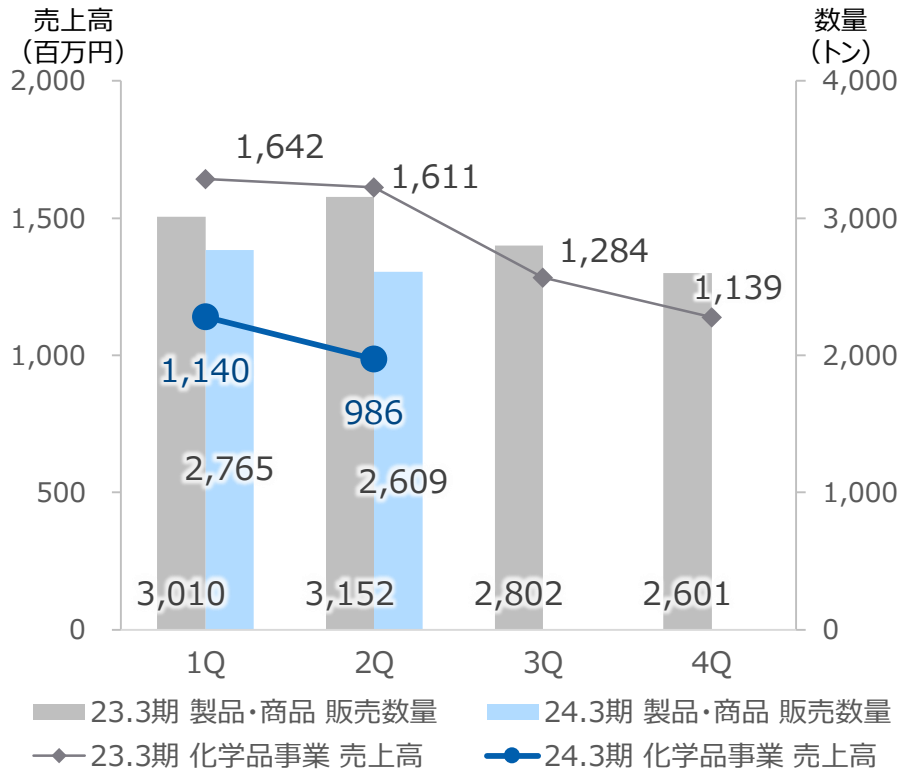
※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております



化学品、自動車事業（四半期ごとの推移）



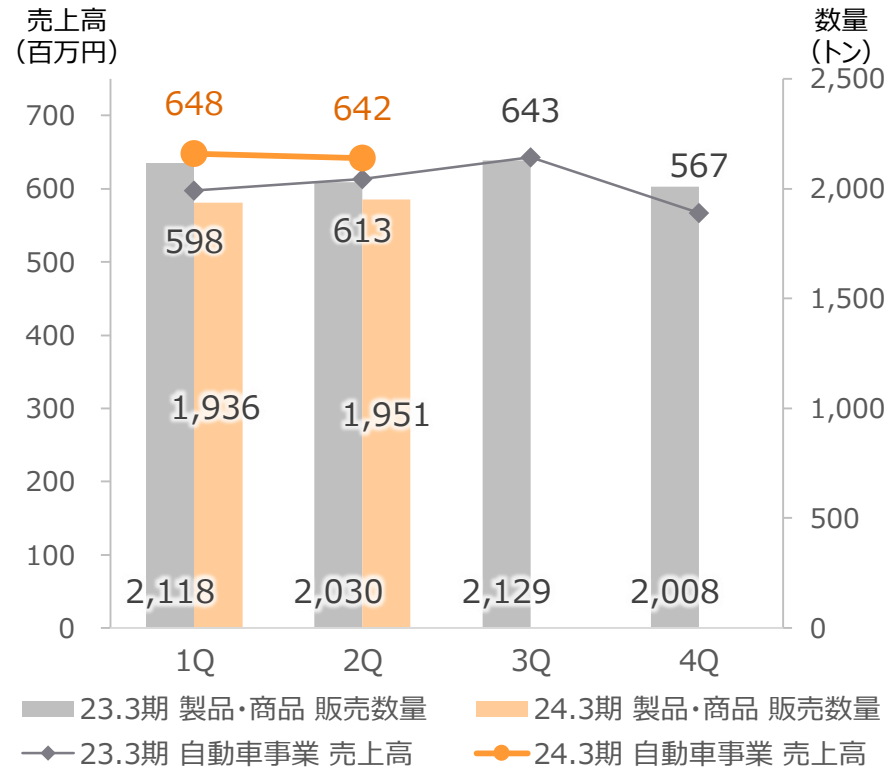
化学品事業



※ 製品：当社グループが品質保証する製造品 商品：転売品



自動車事業



■ 化学品事業売上と製品・商品販売数量

- 前年後半から半導体関連は減速も、電池向けは堅調に伸長
- 主要品目での価格低下は継続（マージンは確保）

■ 自動車事業売上と製品・商品販売数量

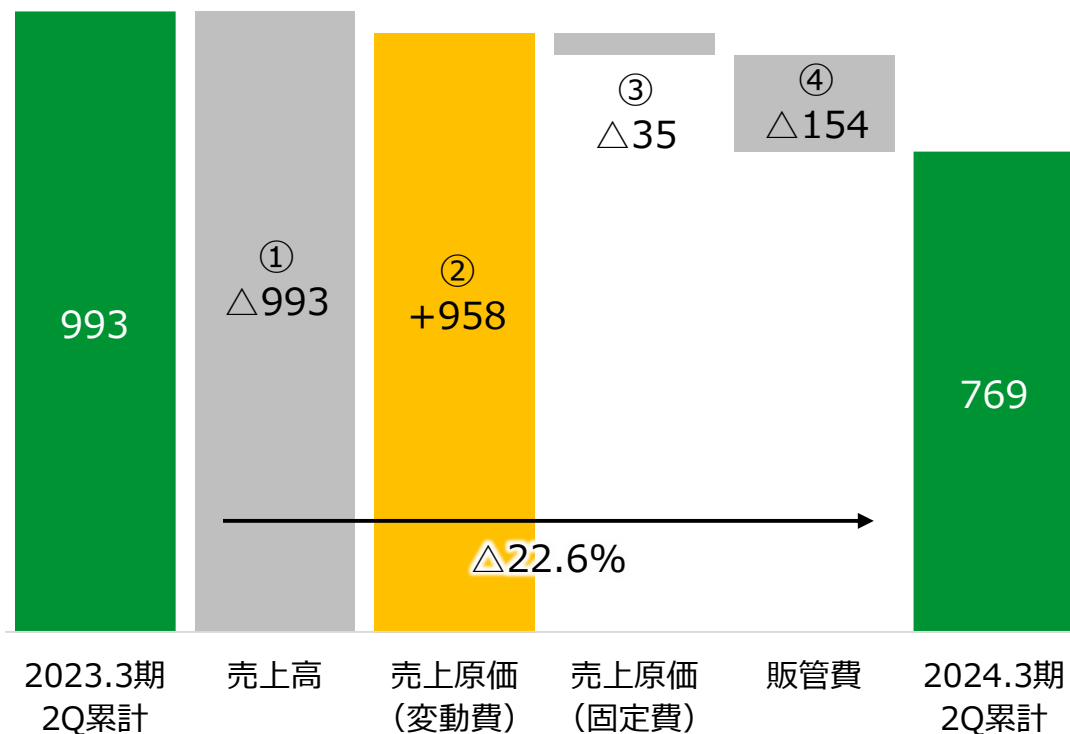
- 完成車メーカーは稼働回復も、ティア2以下では在庫調整継続
- 4月に売価への価格転嫁が進み、2Qは横ばい

※グラフの数量は各事業別の全体数量ではなく、各事業売上と最も相関がある分類のみを選択しております

営業利益増減要因分析（前年同期比）

- リユース事業と化学品事業の売上が大きく減少、顧客稼働低迷に伴う数量減少による影響大
- 当初の計画どおり 人員増・ベースアップ・職場改善等、**未来への投資は継続して実施**

(百万円)



①売上高

- 〈-〉【RU】半導体、電子部品顧客の稼働低迷
- 〈+〉【RC】東西拠点を中心に数量増加
- 〈-〉【化】電池向け○、半導体向け×、単価低下

②売上原価（変動費）

- 〈+〉【化】半導体向けの原材料が減少、単価低下
- 〈-〉【RC】外部処理先への産廃処理費が増加
- 〈+〉【RU】廃棄物原料の買取費用減少
(前年1Qに大型スポット案件)

③売上原価（固定費）

- 〈-〉人員増、ベースアップによる人件費増加
- 〈-〉投資設備の稼働開始による減価償却費増加
- 〈+〉ガス水道費が減少（単価が下がってきた）

④販管費

- 〈-〉人員増、ベースアップによる人件費増加
- 〈-〉職場改善費用、DX投資、教育研修費増加

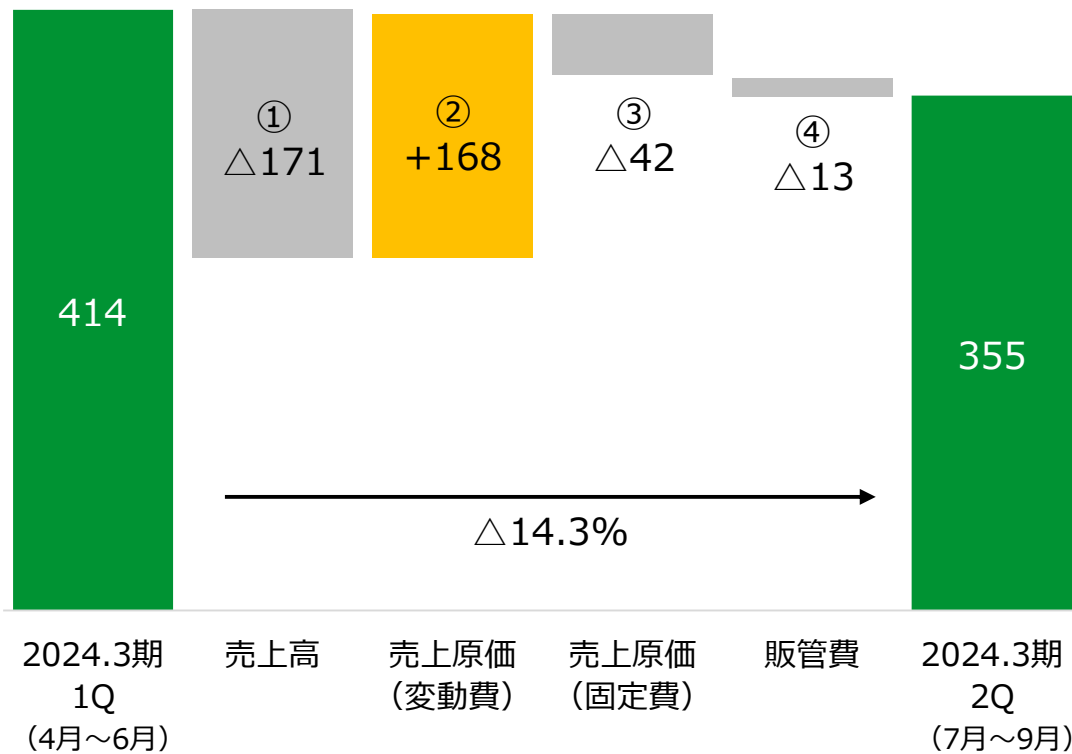
〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因

【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

営業利益増減要因分析（前四半期比）

- 半導体の需要低迷が想定よりも長期化、自動車も中小企業の在庫消費待ちで回復は3Q以降
- 顧客ニーズの強いリユース・リサイクル事業で、売上の減少は最小限にできた
- ユーティリティ単価は下降に転じているが、人件費・職場改善等の固定費増加影響が大きい

(百万円)



①売上高

- 〈-〉夏頃の半導体・半導体材料の影響大
- 〈+〉【RU】リン酸・溶剤の販売数量微増
- 〈+〉【RC】在庫の処分が進み、期ズレで売上増加
- 〈-〉【化】電池向け○、半導体向け×、単価低下

②売上原価（変動費）

- 〈+〉【化】半導体向けの原材料が減少、単価低下
- 〈-〉【RC】取扱数量増で外部運送コスト増加
- 〈-〉【RU】廃棄物原料の買取費用増加

③売上原価（固定費）

- 〈-〉新入社員等の工場配属で人件費増加
- 〈-〉1Qに増加気味だった仕掛品在庫を消費
- 〈+〉電力・ガス単価は下降、ユーティリティ費は減少

④販管費

- 〈-〉人件費増加、職場改善は継続実施
- 〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
- 【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

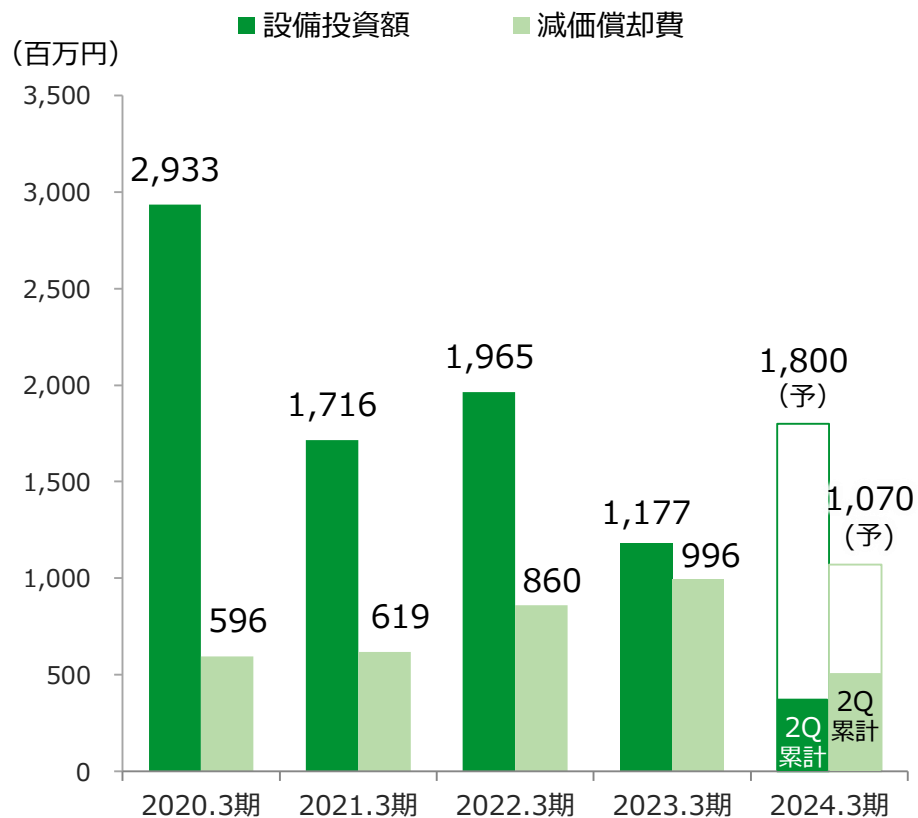
貸借対照表/キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)	2023年3月期末	2024年3月期 2Q末	前期末比 増減額	コメント
流動資産	7,506	6,893	△613	現預金、受取手形・売掛金が減少
固定資産	13,335	13,385	+50	－
資産合計	20,842	20,279	△563	－
流動負債	4,972	4,584	△387	1年以内長期借入金の返済が進行
固定負債	4,836	4,131	△705	長期借入金の返済が進行
負債合計	9,808	8,715	△1,092	－
純資産合計	11,033	11,563	+529	利益獲得
負債・純資産合計	20,842	20,279	△563	－

(単位：百万円)	2023年3月期 2Q累計	2024年3月期 2Q累計	前年同期比 増減額	コメント
営業キャッシュ・フロー	1,025	1,252	+227	法人税等の支払、利益獲得
投資キャッシュ・フロー	△1,483	△ 513	+970	有形固定資産取得による支出増加
財務キャッシュ・フロー	△338	△ 1,094	△755	長期借入金の純減額による支出増加
現金及び現金同等物の増減額	△796	△ 355	+441	－
現金及び現金同等物の期末残高	2,422	2,622	+199	－

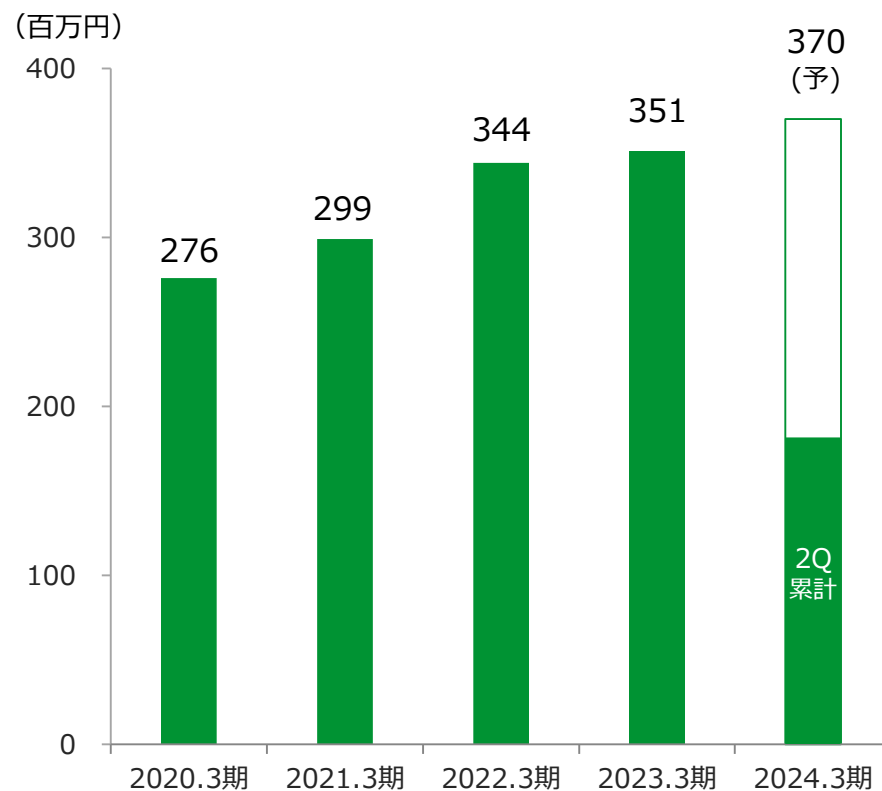
- 上期の投資は概ね計画どおり、研究開発は廃棄物の有効利用と電子材料向け製品関連が中心
- 下期の投資は蒸留塔、茨城電池、農業関連、物流子会社の拠点整備などを予定

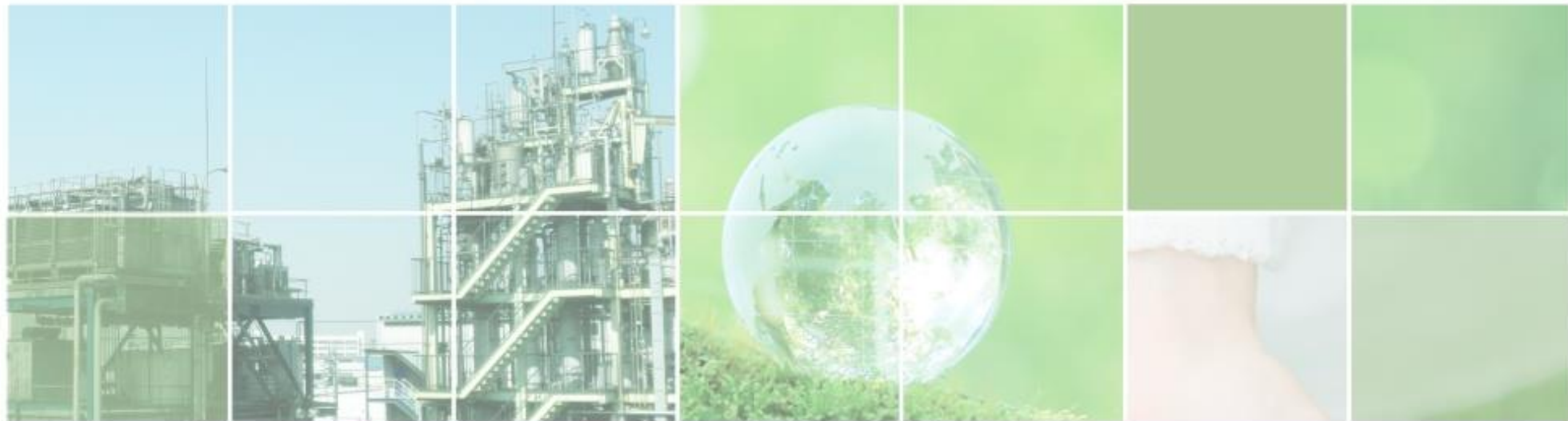
設備投資額・減価償却費



※減価償却費にはリース資産を含む

研究開発費





2024年3月期 業績予想

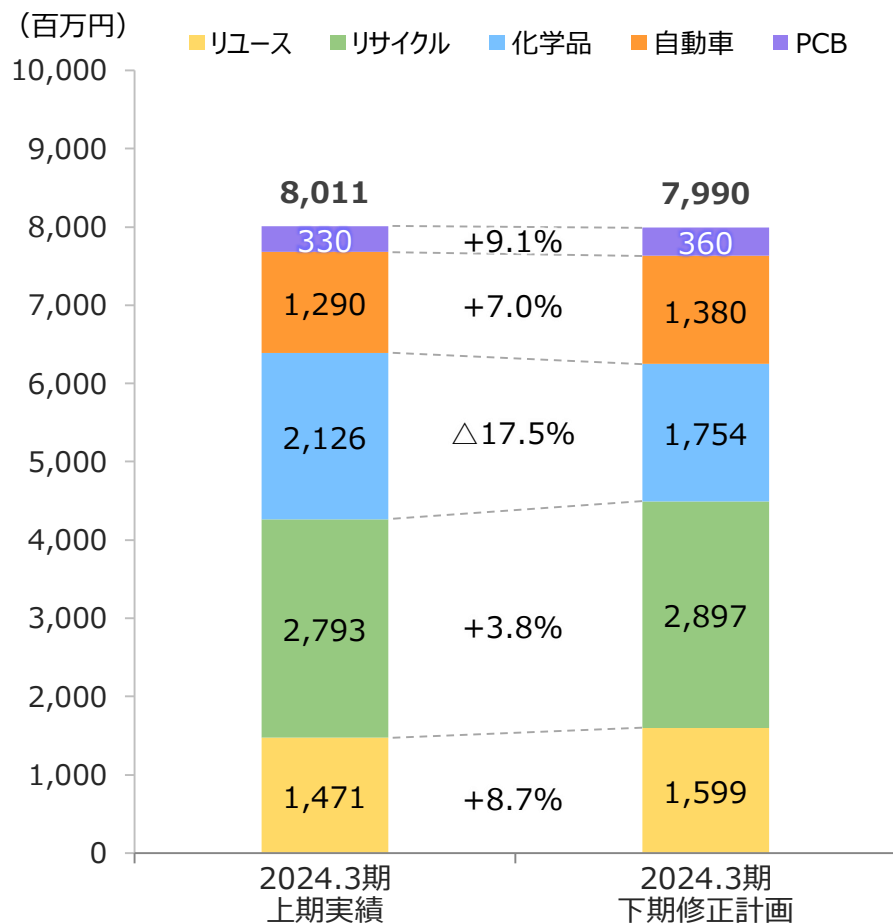


- **半導体・化学業界の低迷が長期化**、及び化学品主要品目の価格低下影響が想定以上に大きい
- 為替145円/ドル、原油80ドル/バレルを前提に、**売上・利益を下方修正**

(単位：百万円)	2023年3月期		2024年3月期					
	実績	売上高比率	修正計画	売上高比率	増減額	増減比	期首計画	期首計画比
売上高	17,367	100.0%	16,000	100.0%	△1,367	△7.9%	18,000	△11.1%
売上総利益	4,981	28.7%						
営業利益	1,885	10.9%	1,620	10.1%	△265	△14.1%	1,950	△16.9%
経常利益	1,936	11.2%	1,640	10.3%	△296	△15.3%	1,970	△16.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,325	7.6%	1,160	7.3%	△165	△12.5%	1,440	△19.4%

- 半導体・化学業界の低迷が長期化する見通しと、茨城の電池向け設備の停止により、売上は減少
- リユース・リサイクル事業は営業の強化で引取数量・販売数量の増加を図る

2024年3月期 上期実績 対 下期修正計画



事業種別概況



リユース事業

- ・ 特定の品目にターゲット絞って営業強化、数量は徐々に回復見通し
- ・ 再生製品のニーズが強い状況は継続



リサイクル事業

- ・ 東西拠点のリサイクル設備を中心に稼働率を向上させていく
- ・ 汚泥・廃プラ等の固形物にも注力、有効利用先の開拓を進める
- ・ 石油・石炭の代替燃料のニーズが強い状況は継続



化学品事業

- ・ 電池向け設備（茨城）増設工事で、4～5ヵ月 一時的に停止
- ・ 溶剤調達のリスク分散（脱China）を進めながら拡販中



自動車事業

- ・ 顧客稼働は徐々に回復見通し、再生油を利用したサステナブル提案
- ・ 特定建設業の許可取得により、大型解体案件の元請け受注を目指す

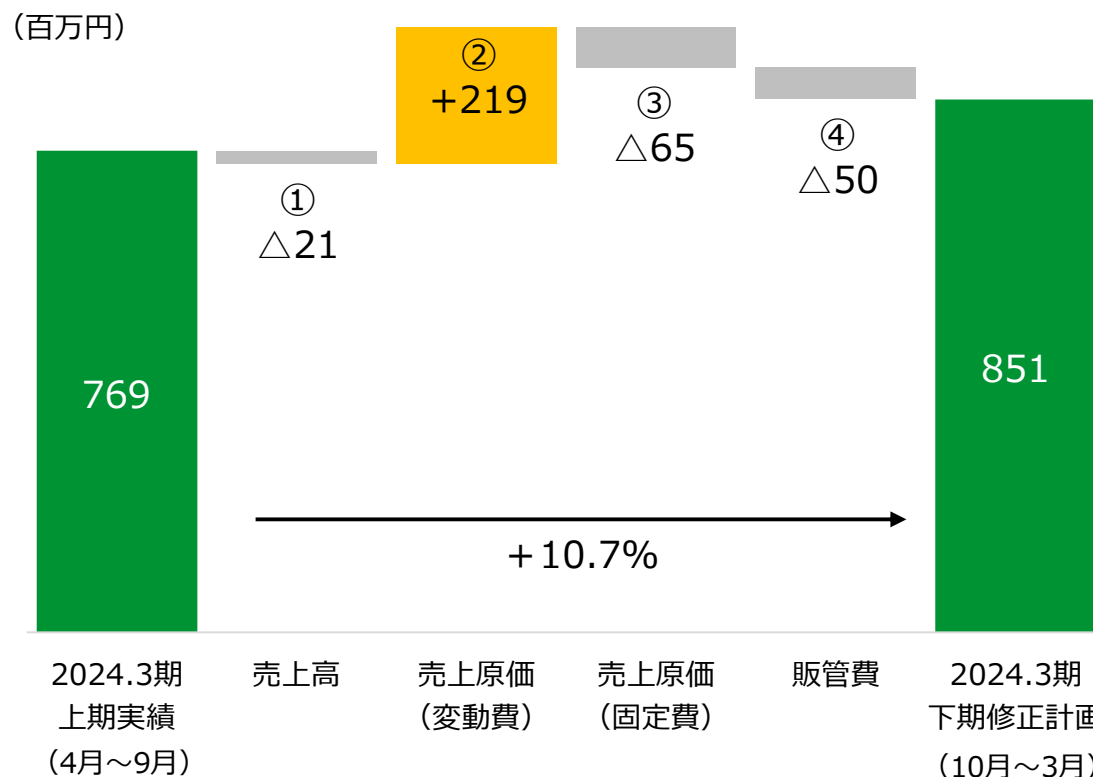


PCB事業

- ・ PCB取引をきっかけに他事業での取引へ展開する活動に注力

営業利益増減要因分析（上期・下期対比）

- 増設工事を進める**化学品事業は当初計画どおり売上減少、リユース・リサイクルで補う**
- 売上構成の変化で変動費（原材料費、容器代等）が大幅減少、一時的な利益率向上を見込む



①売上高

- 〈+〉【RU】廃棄物原料の収集に注力
- 〈+〉【RC】3拠点で取扱数量を増加
- 〈-〉【化】計画どおり電池向け設備を一部停止

②売上原価（変動費）

- 〈+〉【化】電池向け一部停止、原材料費が大幅減
- 〈-〉【RC】取扱数量増で産廃処理費増加

③売上原価（固定費）

- 〈-〉投資設備の稼働開始で減価償却費増加
- 〈+〉電力・ガス単価は下降、ユーティリティ費は減少

④販管費

- 〈-〉職場改善、DX投資は継続実施
- 〈-〉減価償却増（農業関連、物流拠点整備等）

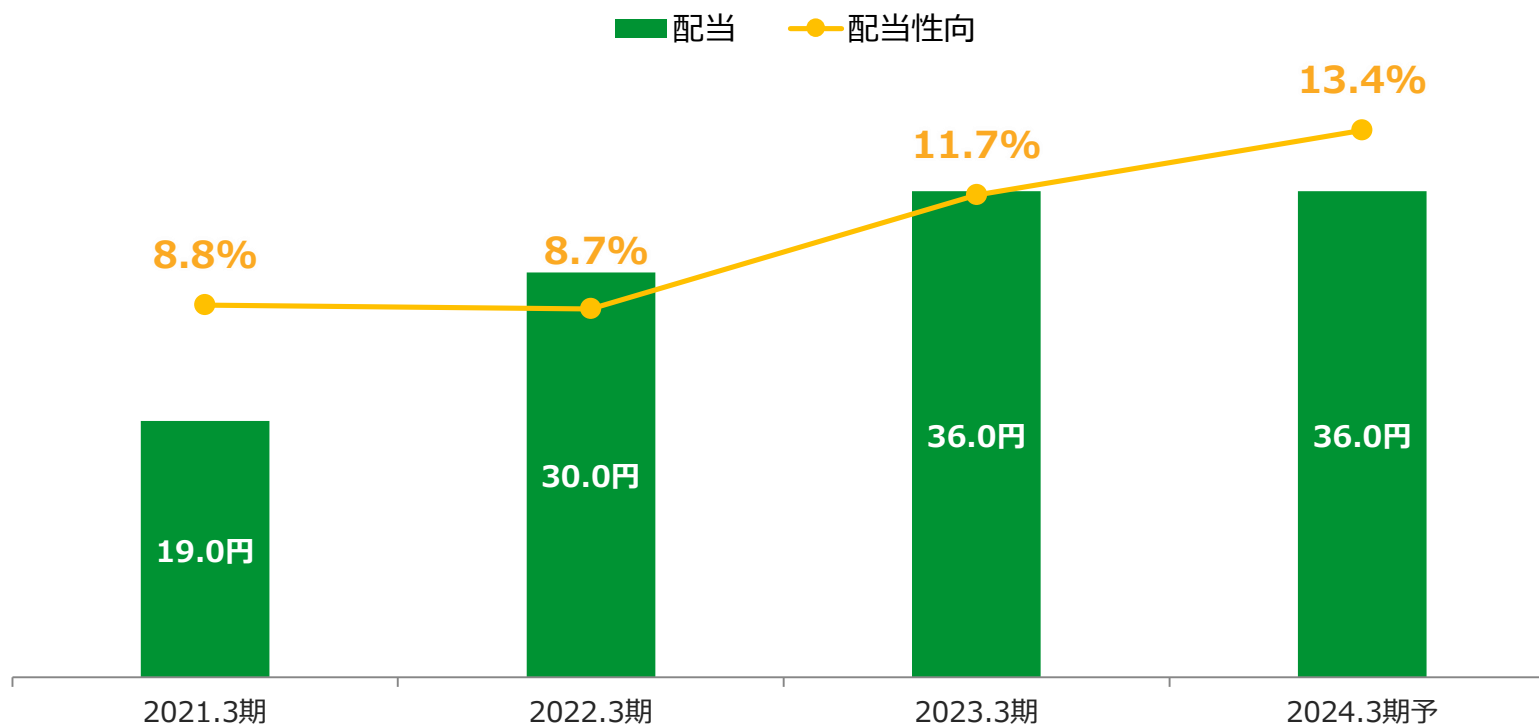
〈+〉利益へプラス要因、〈-〉利益へマイナス要因
 【RU】リユース、【RC】リサイクル、【化】化学品、【自】自動車

- **リユース・リサイクル事業の営業を強化**して取扱数量を増やす
- 2024年度に向けた**設備投資は予定通り**実施

配当方針

今後の事業展開及び財務体質の充実等を勘案のうえ、
安定的な配当を継続して実施していきます

1株あたり配当金・配当性向



※2021年6月18日付にて普通株式 1 株につき20株の割合で株式分割を行っているため、2021.3期については、遡及して配当金額を修正しております。



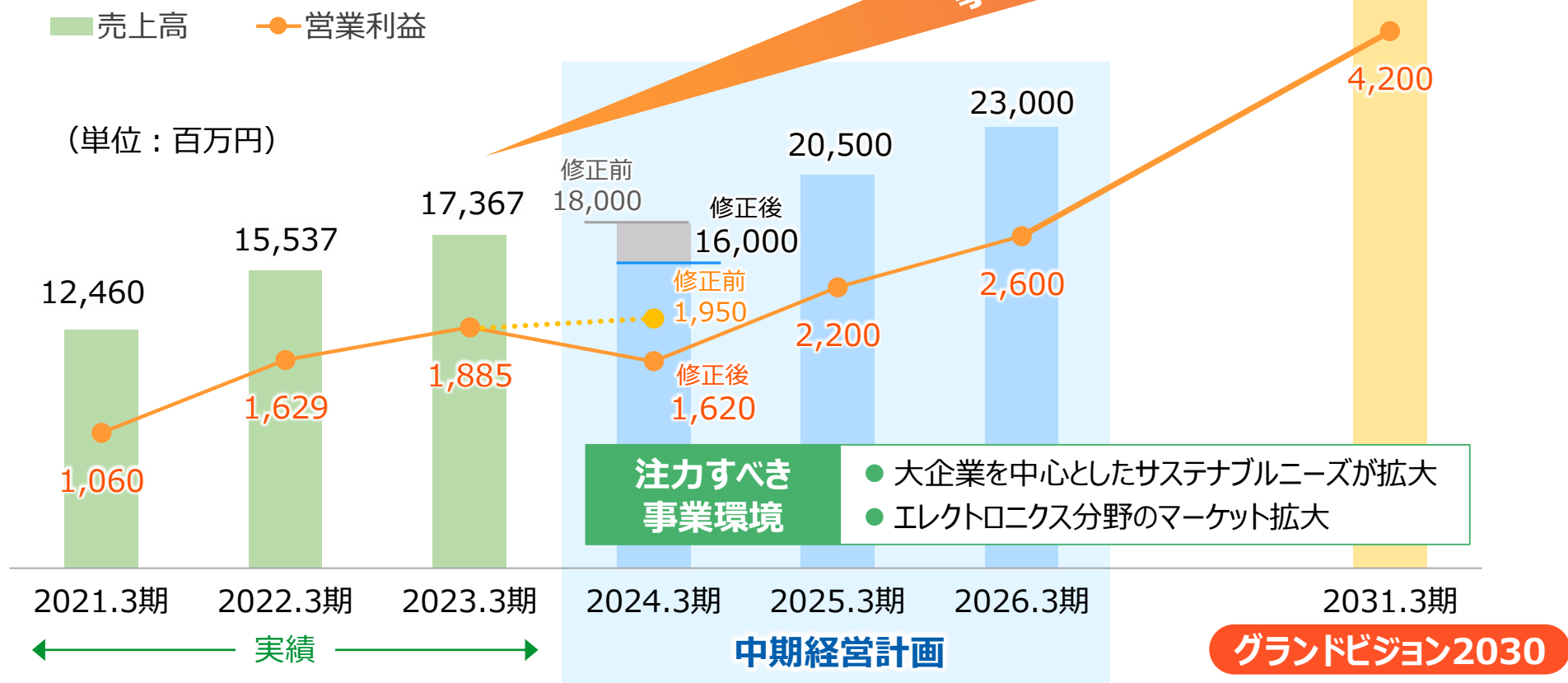
中期経営計画



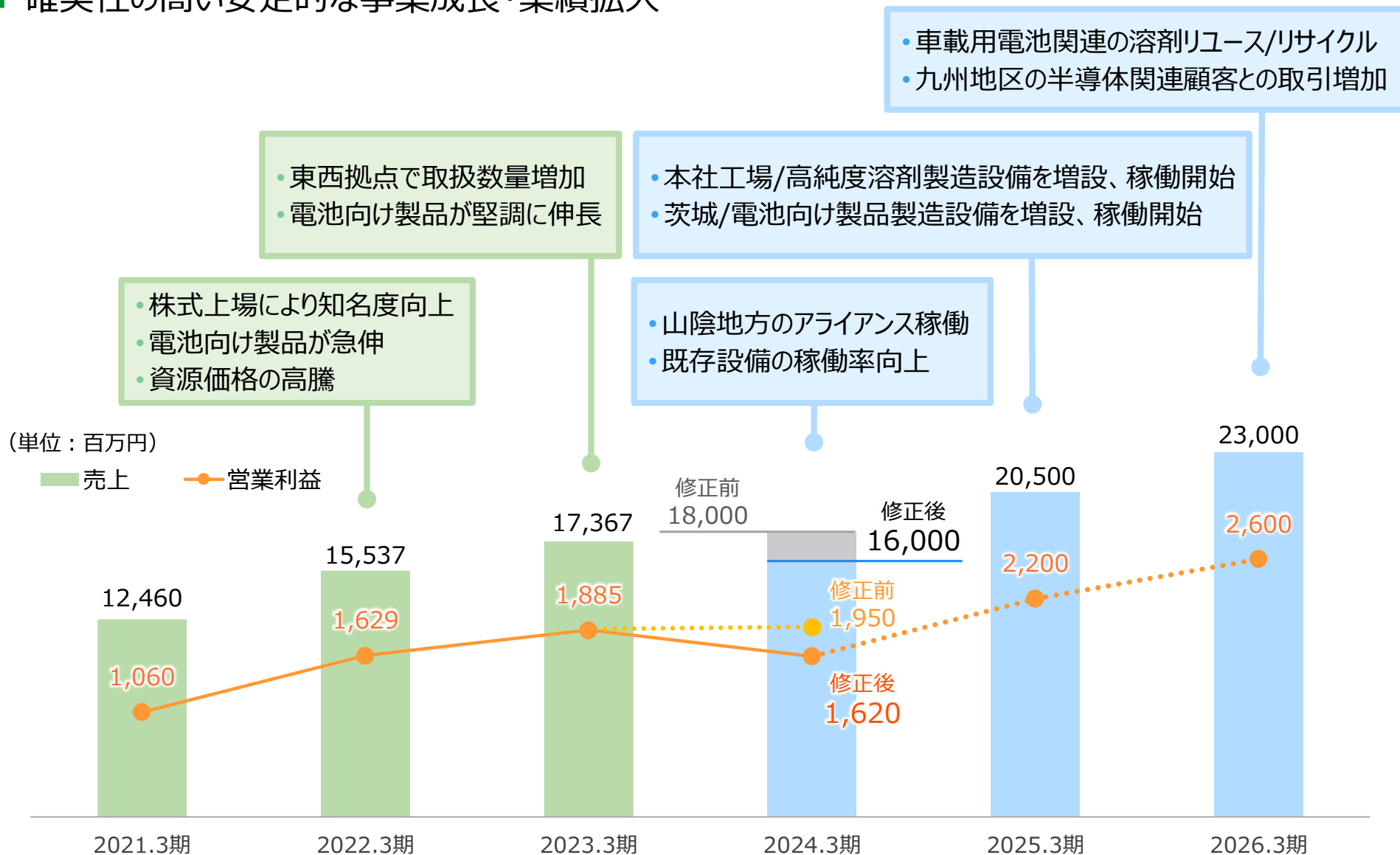
- 売上高 350億円 (2023年3月期比 : 2倍)
- 営業利益 42億円 (2023年3月期比 : 2.2倍)
- 営業利益率 12% (2023年3月期 : 10.9%)

CAGR
(23.3期-31.3期)
9.15%

事業規模を倍増



■ 確実性の高い安定的な事業成長・業績拡大





トピックス



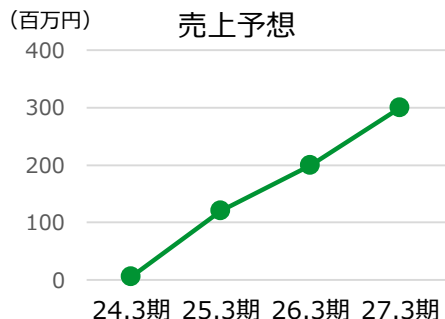


■ リユース事業のアライアンス

電子材料の製造工程で使用された 洗浄廃液を再資源化

アライアンス先の機能を活用しマテリアルリサイクルを加速させる
地産地消型の再資源化により、運送コスト低減、運送時のCO₂排出抑制

- 当社グループによるトータルコーディネート
- **2023年12月に稼働開始予定**
(発注元の稼働低下により、若干遅れてスタート)
- 発注元の品質監査は完了し、立ち上げ準備中
- 来年度以降の売上は予定通り

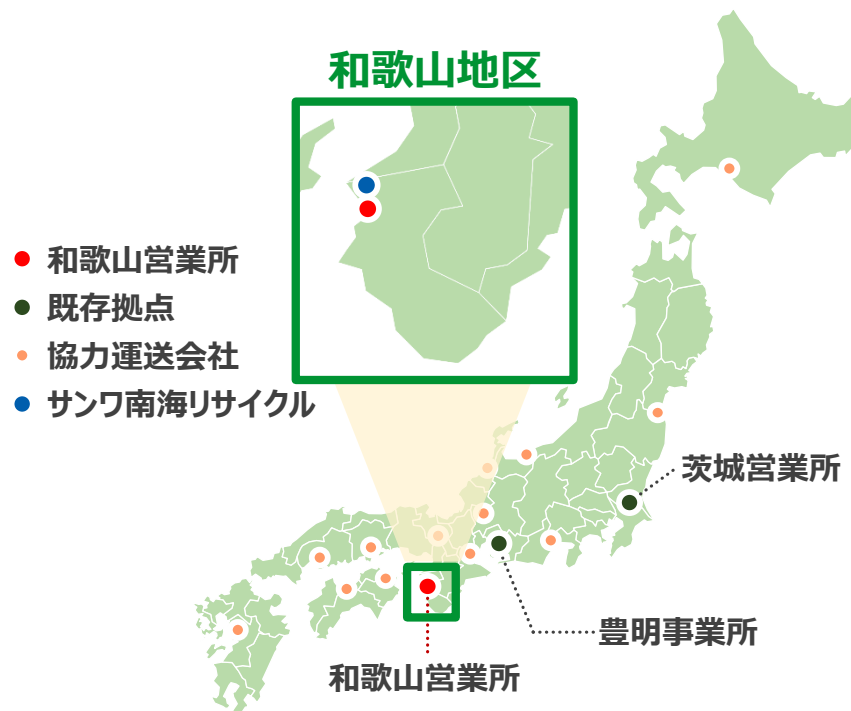


■ 関西地域に物流拠点を設置

和歌山県にサンワリユースの営業所を開設

関西地域のリユース・リサイクルニーズを取り込む
サンワ南海リサイクルへ低コスト、低CO₂で運送が可能

- サンワ南海リサイクルの近隣に営業所を開設
- 2024年1月に開業予定

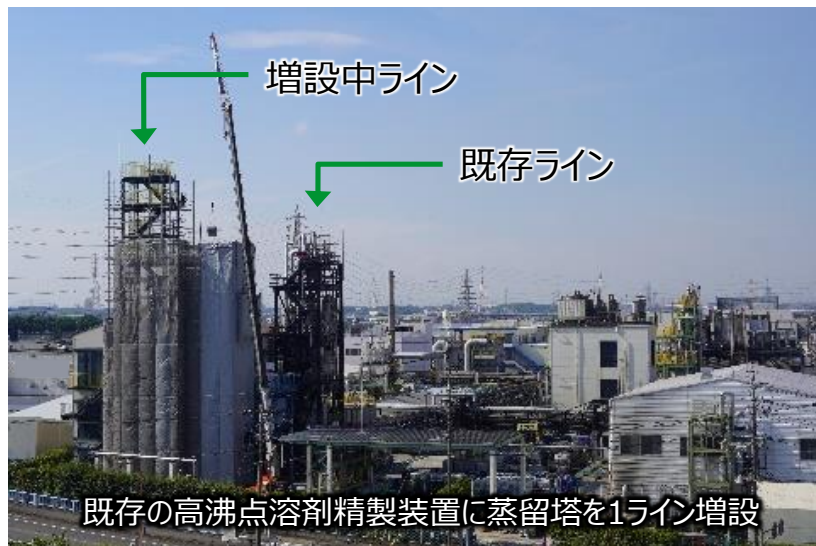




電子材料向け高純度溶剤の生産体制を強化

半導体・電池市場の需要拡大に迅速に対応、
事業拡大を目指す

- 本社工場に高純度溶剤製造設備を増設
- 省エネ かつ CO₂排出抑制型の設備
- 生産能力(予定) 2,000t/年
- 2024年3月に完成予定
- 2024年度下期以降に稼働開始予定

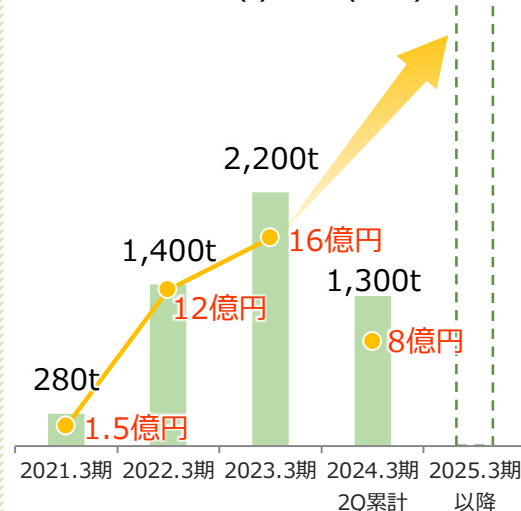


電池向け製品の生産体制を強化

電池市場の需要拡大を背景に、
化学品事業の成長をさらに加速させる

- 茨城事業所に電池向け製品製造設備を増設
- 生産能力は既存の2倍以上へ拡大
- 2024年2~3月に完成予定
- 2024年の夏以降に稼働開始予定

電池向け製品の
売上数量(t)・金額(億円)



PCB事業

PCB廃棄物の適正処理ソリューション
リユース・リサイクルの潜在ニーズを開拓

- 保有業者へPCBの最適な処分方法を提案
- PCB処分業者への収集運搬や機器の解体を実施
- PCB事業以外の新規顧客開拓に活用



マーケットの変遷に対応

PCB事業で培った作業・解体の知見を
新たなニーズの開拓に繋げる

- 高度経済成長期に建設されたプラントが改廃される時期
- EVシフトによって、自動車業界でも設備の改廃が進む

PCB処理で得た豊富な経験（抜油、洗浄、解体、清掃等）
徹底した安全教育と各種有資格者の在籍

設備の清掃・解体・撤去作業等の
エンジニアリング業に参入

特定建設業の許可取得

化学物質取扱いの経験を活かし、清掃と撤去を一貫して実施
特定建設業の許可取得で大規模なプラントの解体も可能に

- 撤去する設備内に残った残液を回収し、リユース・リサイクル
- 引火性の高い液体や強酸等、化学物質取扱いのスペシャリスト

内部清掃・洗浄

作業
【抜き取り清掃／充填】



▲ 内容物のリサイクル
（抜き取り作業の様子）

設備解体

工事
【撤去・解体・移設】

基礎撤去 残材搬出

特定建設業の許可

愛知県知事 許可 第69306号

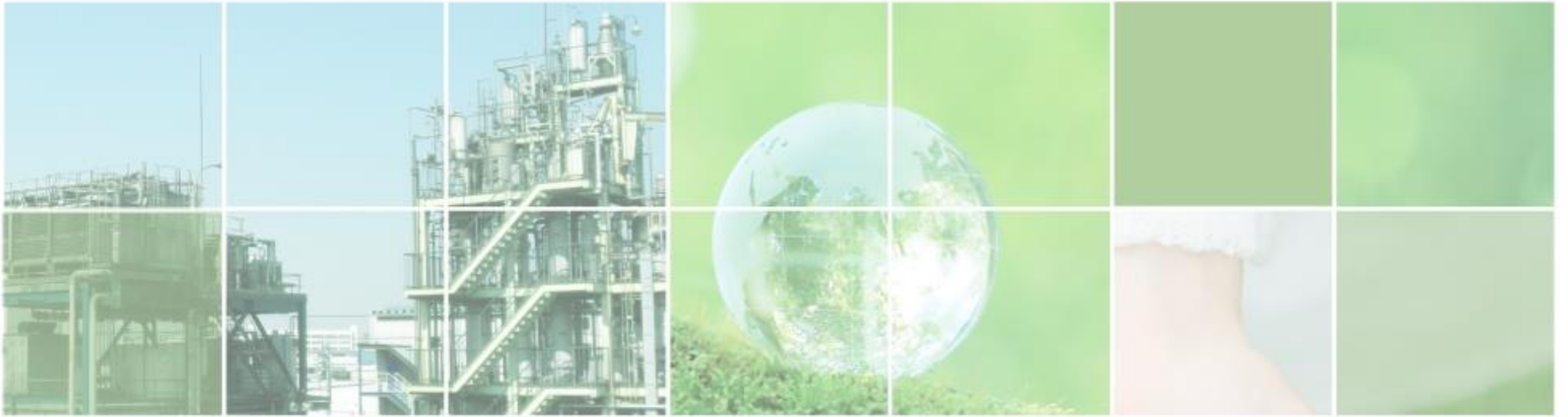
特定建設業 とび・土木工事業、解体工事業

一般建設業 電気工事業

建設業の許可票			
商号又は名称	三和油化工業株式会社		
代表者の氏名	代表取締役 柳 均		
一般建設業又は特定建設業の別	許可を受けた建設業	許可番号	許可年月日
特定	とび・土工事業	愛知県知事許可(特5) 第69306号	令和5年6月13日
特定	解体工事業	(特5) 第69306号	令和5年6月13日
一般	電気工事業	(敷4) 第69306号	令和4年12月25日
この高欄で営業している建設業	とび・土工、解体、電気工事業		

▲ 許可票（建設業）

- ◆ 工場の改廃ニーズを取り込む
- ◆ 残液抜き取り・処理から設備撤去までワンストップ



Appendix



- 事業環境と当社グループの強みを踏まえて、経済的価値と社会的価値の向上を図る

事業環境

大企業を中心としたサステナブルニーズ

- 国内での資源循環、サーキュラーエコノミー
- 化石エネルギーからの転換、脱炭素
- 資源調達リスク等の課題解決

エレクトロニクス分野のマーケット拡大

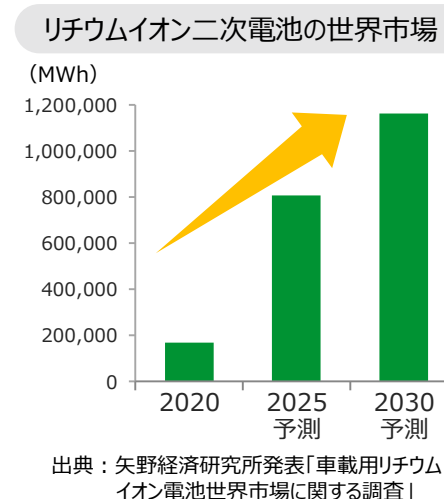
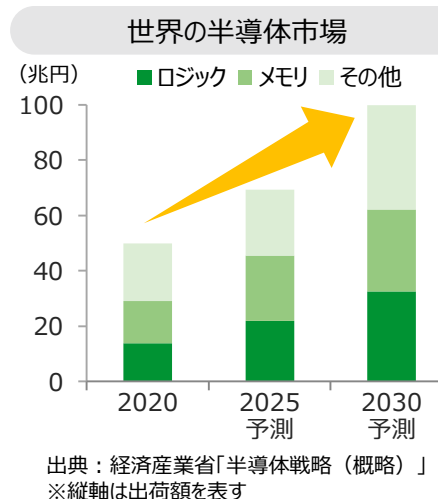
- 新たな工場建設への投資が加速
- 次世代自動車シフトによるサプライチェーン変化
- 微細化に伴う品質要求厳格化と再生材ニーズ

自社グループの強み

- ① 全国から様々な廃棄物を集める仕組みと特徴ある産廃許可を保有
- ② 輸入依存資源をマテリアルリサイクルできる高度な分離・精製技術を保有
- ③ リサイクル企業であり、メーカーである
- ④ 廃棄物から電子材料まで幅広い事業領域
- ⑤ 全国の優良企業との直需取引

⇒ 拡大するニーズ・マーケットに対し、世の中の役に立つ仕事を通じ「社会から必要とされる環境リーディングカンパニー」を目指す

- グランドビジョン2030に向けた**次期大型投資の準備**
- 1 案件あたり数十億円規模の投資を複数計画していく



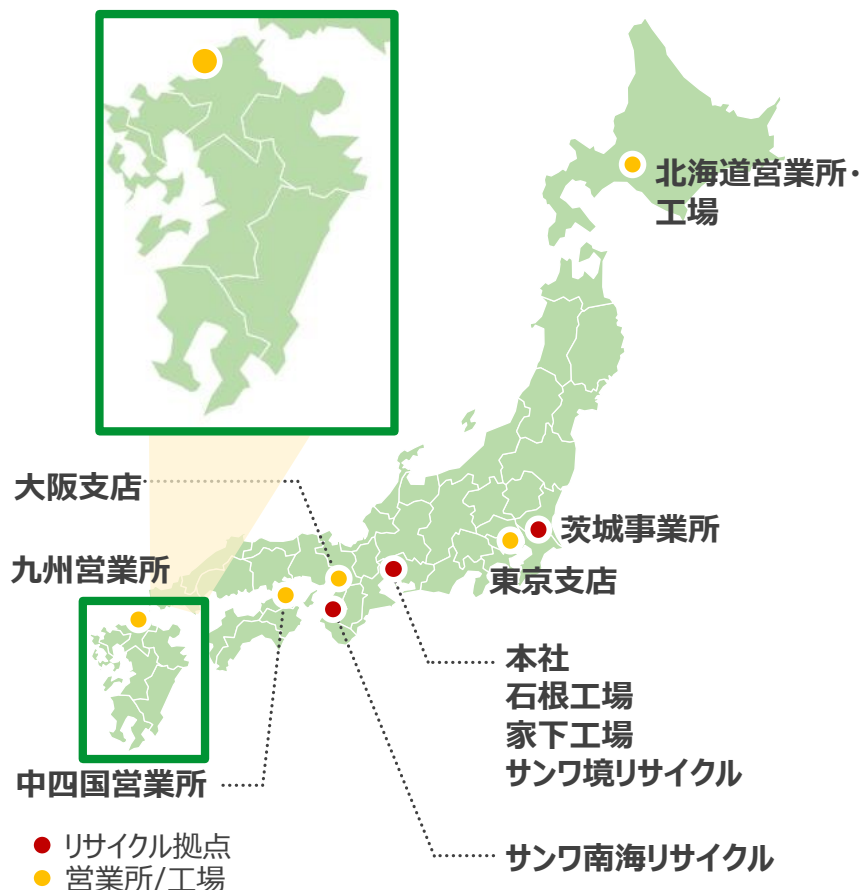
本社地区で半導体・電池関連のキャパ増

- 中長期的にエレクトロニクス分野のマーケットは確実に拡大
- 半導体微細化で、さらに品質厳格化が進む
- 現時点で再生材の利用は限定的だが、今後は前向き検討が進む
- 生産能力UPとともに、品質レベル向上が必要

⇒ **成長が期待できる業界に対し、さらなる設備増設と品質向上のための研究開発を積極的に進める**

- グランドビジョン2030に向けた**次期大型投資の準備**
- 1 案件あたり数十億円規模の投資を複数計画していく

九州地区



- 九州の半導体関連の設備投資に関する試算

半導体関連企業の設備投資額 **4,939億円**（2022年～2024年の平均）
1年あたりの投資額：約5,000億円

九州で計画・実施されている半導体関連企業の設備投資

JASM/富士フイルムエレクトロマテリアルズ/京セラ/東京応化工業/
ソニーセミコンダクタマニュファクチャリング/SUMCO/三菱電機/住友ベークライト/
ローム・アポロ/東京エレクトロン/SCREEN SPE サービス 等

（出典）日本銀行福岡支店「BOJ Reports & Research Papers」より抜粋

九州等の成長エリアにおけるリユース・リサイクル

- 九州地区は半導体関連の工場建設・投資が進む
- 有機/無機化学品の需要が増えていく見通し
- 産業廃棄物の処分業者は存在する一方、マテリアルリサイクル競合先は少ない状況

⇒ **成長が期待できる地域での新たな工場拠点について具体的な建設計画を早期に進める**

【本資料及び当社IRに関するお問合せ先】

三和油化工業株式会社

TEL 0566-35-3021（経営管理部）

URL <https://sanwayuka.co.jp/>

本資料に記載されている、将来の業績に関する計画、見通し、戦略などは現在入手可能な情報に基づき判断したものであり、リスクや不確実性を含んでおります。

実際の業績は、様々な重要な要素により、大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。